

## 35

## 白鼠腦組織食鹽水エキスの Dehydrogenase 作用

田所 哲太郎 齋藤 恒行

(北海道帝國大學理學部生物化學教室)

著者等は Nucleotid 型の酵母, 胸腺 Nuclein 酸, Pyridin nucleotid 及び Guanyl 酸と Thiazol 型の Thiamin, 4 Methyl 5  $\beta$  hydroxyethylthiazol 及び 4 Methylthiazol 5-carbon 酸とは共に pH 7.2 にありて Dehydrogenase 作用を顯して兩型により基質に對する選擇性を異にし, 即ち特異性あることを詳細に報告せり (日本化學會誌). 仍つて白鼠腦組織より食鹽水により浸出せるものの Dehydrogenase 作用は兩型何れに屬すべきやを試験して Nucleotid 型なるべしと推定せり. 蓋し基質マントスとグルコサミンとの間に作用上差異殆んど認め難きも, Thiazol 型は後者を基質とする場合, その作用半減するが故なり. 又腦中に Cozymase の Pyridinnucleotid 及び Co-carboxylase なる Thiaminpyrophosphat の存在すること, 既に證明せられし處なれば兩者何れに屬すべきやを判定すること必要なりと考へたるが故なり.

腦組織の食鹽水エキス中に現はるゝ Dehydrogenase は, 基質として枸橼酸鹽にありて最も強く, マントスこれに次ぎマンノウロン酸鹽にては作用弱し. 又該酵素の賦活作用は  $MgCl_2$  によるもの最も強く  $CaCl_2$  はこれに次ぎ  $AlCl_3$  にありて最も劣ることを認め, 何れも  $\frac{1}{1000} \sim \frac{1}{20000}$  Mol 溶液にてよく賦活作用を顯すことを認めたり.

[詳細は日本農藝化學會誌に發表す]

(受附: 昭和 16 年 12 月 17 日)

[醫學と生物學・第 1 卷・第 3 號・頁 119・昭和 17 年 2 月 5 日]